

平成 22 年度資金収支状況について

1 概 要

(1) 資金収支

平成 22 年度当初（平成 22 年 4 月 1 日）の歳計現金等（歳計現金と雑部金）の残高は約 77 億円、年度末には約 92 億円の残高となった（表 1 参照）。また、一日あたりの歳計現金等の平均残高は、48 億 6 千 4 百万円（最低残高 12 億 9 百万円、最高残高 105 億 7 千 1 百万円）となっており、積立基金からの繰替運用を行うことなく推移した（表 2 参照）。

(2) 基金運用

積立基金は、安定した運用益を得るため歳計現金等残高の推移を見ながら、安全でかつ有利な定期預金や国債・地方債等の債券で運用を行った。景気減速懸念に伴う金融緩和により超低金利状況が続き、指定金融機関の 2 年定期預金金利は平均で 0.08%（前年度 0.21%）まで下がった。その影響があり、運用益は 1 億 7 千 2 百万円、運用利回りは 0.42%（前年度運用益 2 億 8 千 8 百万円、運用利回り 0.69%）となった（表 3 参照）。なお、平成 23 年 3 月末の積立基金運用状況は、表 4 を参照。

2 参考資料

表 1 平成 20、21、22 年度 歳計現金等残高比較 (単位：百万円)

年 度	平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	
	4 月 1 日	3 月 31 日	4 月 1 日	3 月 31 日	4 月 1 日	3 月 31 日
金 額	18,963	11,007	12,652	8,284	7,728	9,166

表 2 歳計現金等残高比較

年 度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
最高額	23,019 百万円	12,652 百万円	10,571 百万円
最低額	1,121 百万円	2,434 百万円	1,209 百万円

表 3 積立基金運用益比較

年 度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
年度末残高	38,711,648,701 円	41,739,533,766 円	41,214,277,366 円
運用益	237,240,112 円	288,239,958 円	171,912,153 円

表4 積立基金運用状況（平成23年3月31日現在）

基金名	残高（円）	運用種別（単位：百万円）
中野刑務所跡地防災公園建設基金	991,208,000	普通預金、債券、定期預金 (191) (200) (600)
財政調整基金	20,456,870,000	普通預金、債券、定期預金 (4,076) (9,880) (6,500)
社会福祉施設整備基金	1,332,148,000	普通預金、債券、定期預金 (432) (200) (700)
減債基金	5,407,710,451	普通預金、債券、定期預金 (875) (3,533) (1,000)
義務教育施設整備基金	8,028,970,000	普通預金、定期預金 (729) (7,300)
平和基金	101,271,063	普通預金、定期預金 (1) (100)
災害対策基金	308,008,000	普通預金 (308)
区営住宅整備基金	732,599,000	普通預金、債券、定期預金 (33) (100) (600)
介護給付費準備基金	1,648,117,807	普通預金、定期預金 (448) (1,200)
道路・公園整備基金	504,798,000	普通預金、債券、定期預金 (105) (200) (200)
まちづくり基金	1,695,826,000	普通預金、定期預金 (996) (700)
区民公益活動推進基金	1,209,652	普通預金 (1)
介護従事者処遇改善臨時特例基金	5,541,393	普通預金 (6)
計	41,214,277,366	普通預金、債券、定期預金 (8,201※) (14,113) (18,900)

※ 定期預金や債券が満期を迎えると、次の運用を行うまで一時的に普通預金が増える状態となる。通常、普通預金は6億円程度である。